

資料 鷓6

令和5年度 北海道CLASSプロジェクト実施計画書（3年次）

学校名	北海道鷓川高等学校
作成日	令和5年4月17日

1 今年度の目標と取組計画

月	取組
3年次 (R5) 【予定】	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校×大学×地域の3者と連携した「むかわ学」等探究学習や「デュアルシステム」等キャリア教育のさらなる充実</li> <li>・探究学習から派生する各種プロジェクトへの人的・経済的支援体制の充実</li> <li>・公営塾の充実</li> <li>・小中高12年間の「むかわ学」による「むかわスタンダード」の作成</li> <li>・地域との協働による高校魅力化による地域みらい留学365と地域みらい留学生の複数名の生徒の獲得</li> </ul> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高大地連携のもと地域住民、大学生を巻き込んだむかわ学の実施及び、デュアルシステム受入企業の拡大</li> <li>・地域人材と協働したプロジェクトの拡大</li> <li>・むかわ町としての「むかわスタンダード」の決定・公表</li> <li>・公営塾の効果的運用</li> <li>・部活動地域移行に係る協力体制確立</li> <li>・生徒を主体とした学校の魅力発信による複数名の地域みらい留学生の獲得</li> <li>・道外推薦入学に対応しうる受け入れ体制の環境整備（寮、町親、受入後の年間計画）</li> </ul> <p>【検証の項目】※定量及び定性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域をキャンパスとした学び」による生徒の変化</li> </ul>

2 今年度の検証の項目と方法

検証の項目	検証の方法
Collaboration (連携・協働)	<p>&lt;高校と地域との協働&gt;</p> <p>デュアルシステムの受入事業者数、コンソーシアム委員数プロジェクト数と地域人材の関与数等、連携の成果まとめ高大地連携事業による大学生の参加数</p>
Literacy (知識の活用)	<p>&lt;「地域をキャンパスとした学び」による生徒の変化&gt;</p> <p>進路動向、プロジェクト数、学校評価等 コンテスト、フェス応募数と賞の内容</p>
Adult (大人の参画)	<p>&lt;「むかわ学」に関係した地域人材の変化&gt;</p> <p>むかわ学に関与した町民数、大人の関わりや変容のまとめ学校関係者評価</p>
Student (生徒の理解)	<p>&lt;「むかわ学」を終えた生徒・教職員の変化&gt;</p> <p>事後アンケート、教職員アンケートへの記載事項の分析 生徒による学校評価</p>

資料 鷗 6

System (体制の構築)	<地域及び地域外に対する高校魅力化の浸透> 地元中学生の本校進学率、地域みらい留学 365 生の希望人数 地域みらい留学生（道外募集）の受検人数 むかわ学及び高校魅力化コーディネータの地域と学校の連携成果
-------------------	---

3 今年度（令和5年度）の取組

月	コンソーシアム会議・関係者打合せ等	主な学習活動
4	第1回コンソーシアム事務局会議 札幌大学との事務会議	高校魅力化事業内容 (魅力化事業の学習内容)
5	第1回コンソーシアム役員会議兼 第1回学校運営協議会	(1)高校生対流促進事業（地域みらい 留学365）での留学生交流
5	第1回コンソーシアム運営委員会	(2)むかわ学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲによる地域での 学び
7	第2回コンソーシアム事務局会議	(3)デュアルシステムでの地域事業所 でのキャリア学習
10	第3回コンソーシアム事務局会議	(4)公営塾（夢叶輪公営塾）での放課 後学習、公営塾スタッフによる進路 支援
10	第2回コンソーシアム役員会議兼 第2回学校運営協議会	(5)高大地連携による事業 大学生と連携した学び（むかわ学を 中心とした札幌大学との協働探究学 習、上級学校体験。）
11	第2回コンソーシアム運営委員会	
2	第4回コンソーシアム事務局会議	
2	第3回コンソーシアム役員会議 第3回学校運営協議会	
2	第3回コンソーシアム運営委員会	

4 自走可能な体制整備に向けた方策

<p>・現在、地域協働事業はむかわ町や連携型中高一貫教育推進委員会、高校魅力化コンソーシアム等の支援により、すでに「むかわ学」「デュアルシステム」は自走しており、今後、その事業のブラッシュアップに向けた方策が必要。                  具体的には① 地域みらい留学生（道外）の募集に向けたへの町の支援（居住地等）                  ② 高校生と中学生が交流できる合同研修会（ワークショップ等）の企画や中高合同ボランティア活動の複数学年での実施 ③ 公営塾の探究学習のスタッフ確保                  ④ 小中高の「むかわ学」の系統的な学習の接続を目的とした「むかわスタンダード」の作成による探究の接続 ⑤札幌大学生をファシリティーとしたむかわ学合同探究ゼミの実施 等を町や大学と連携して進めている。</p>
---

5 圏域の研究指定校等、他校との連携・交流について

<p>今年度は、高大地連携の2年目となり、5月8日から大学生がむかわ学Ⅲの授業に参加し、計画的な連携事業ができる。また、町もその大学生をインター生として活用するなど、高校、大学、地域 3者連携が構築されている。</p>
---

# 北海道CLASSプロジェクト 発表会

## 北海道CLASSプロジェクト

**事例発表 ～3年間の歩み～  
 鶴川高等学校(連携校)の実践について**

令和5年11月16日(木)

発表者 北海道鶴川高等学校 校長 柳本 高秀  
 教諭 山岸 拓  
 教諭 木村 亮仁  
 コーディネータ 阿部 愛美

- (1) 全体的な取組について 校長 柳本 高秀
- (2) 高校生対流促進事業 地域みらい留学 C N 阿部 愛美
- (3) むかわ学について 教諭 木村 亮仁
- (4) デュアルシステムについて 教諭 山岸 教諭
- (5) 公営塾「夢叶輪」について //
- (6) 高校×大学×地域連携事業について //

### ◆ 3年間の主な取組 (概要) について

#### ① 地域みらい留学の取組

・地域協働による高校魅力化で地域みらい留学365と地域みらい留学生の獲得(町親との交流、町のイベント参加、関係人口の創出など)

#### ② 地域学「むかわ学」の取組

・地域探究学習「むかわ学」により、地域課題を地域の方との協働により課題を解決を考察し、町の施策として実施可能な地域創生案の提示。  
 ・探究学習から派生した各種プロジェクトへの自走の定着

#### ③ デュアルシステム(長期インターンシップ)の取組

・地域協働による「デュアルシステム」等キャリア教育による地域の担い手創出

#### ④ 公営塾の充実

・公営塾スタッフとの連携により、放課後学習の充実と進路実現のための支援の向上

#### ⑤ 高校×大学(札幌大学)×地域(むかわ町)の連携による事業

・「むかわ学」を中心とした探究学習や大学国際交流学習、情報リテラシー学習等の大学生との合同学習(大学生の地域創生への参加、大学生の進路を見据えた地域学、大学生のインターン)

### 【主な取組と成果】

#### 地域を学びの場とした教育課程の定着（3年次）

- ① **町と連動した地域みらい留学生の獲得**
  - ・町と連携した道外生徒受け入れ体制の環境整備（ハード面の財政的支援）ができた
  - ・寮、町親、受入後の生活環境、生徒の緊急時の体制整備等の整備ができた
- ② **地域人材や資源を活用したむかわ学による探究学習サイクルの定着**
  - ・地域人材と協働したプロジェクトの拡大ができた（コスプレ、グルメフェスタの企画）
  - ・探究成果を町長、議長、関係者への発信・提案という形での還元できた。

#### ⑤ 高大地連携体制の構築

- ・前期5月からの大学生の継続的なむかわ学IIIへのゼミ活動への参加体制、協働活用ができた。
- ・札大留学生と各国の歴史教育の差異について討論する合同授業を行うことができた。
- ・札幌大学生と1学年でオンラインで情報リテラシーについて討論し、最後に合同で中塚医師の講義を受けた。

#### 【後期の札幌大学との連携事業】

- ・むかわ学IIもテーマ設定の場面から大学生が入る予定。
- ・上級学校見学で大学の授業参加と校舎見学予定
- ・各国留学生による、国際交流授業を実施予定

#### ③ 地域企業、官公庁、教育機関を活用した

#### デュアルシステムの定着

- ・個別の進路に合わせた質の高いインターンシップの実現（むかわ町だけでは不十分）
- ・個別の進路に応じた受け入れ先の拡大ができた（苫小牧市中小企業同友会と連携し次年度実現）
- ④ **公営塾を活用した難関大学への進路実現**
  - ・公営塾スタツフの学校での日常的支援体制の構築ができた。（チャレンジスタテイへの支援）
  - ・公営塾の場での進路支援体制の継続的活用（公営塾での面接練習等）ができた。
  - ・生徒の放課後学習の場（探究も含め）としての公営塾機能の活用が不十分だった。



前期だけで、CLASSプロジェクトで関わった外部の方々には100名を超えました。



町役場 20名 (町議含む)、札大 23名 (学生含む)、地域みらい留学関係 15名 (寮母、町親さん含む)、むかわ学講義・巡検・協力・協力 20名、デュアルシステム事業者 15名、公営塾 2名、むかわ学から派生したプロジェクト事業(コスプレ、フラワーロス、むかわ牛寿司) 10名以上



## まとめ～3年目CLASSプロジェクトから見た事業成果～

### 1 Collaboration (連携・協働)

<高校・地域・大学との協働>

- デュアルシステムの受入事業者数、コンソーシアム委員数
- プロジェクト数と地域人材の関与数等、連携の成果まとめ
- 高大連携事業による大学生の参加数

⇒連携・協働する企業や関係者は毎年増えているが、コンソーシアム委員数を増やすことがその成果ではないと考える。必要なのは自走のための、コンソーシアムが主体的に学校や地域の魅力化に関わろうとすることが自走につながる。

## 2 Literacy (知識の活用)

<「地域をキャンパスとした学び」による生徒の変化>

- 進路動向、プロジェクト数、学校評価等
- コンテスト、フェス応募数と賞の内容

⇒昨年度、1名の生徒が、小樽商科大学にむかわ学での探究学習の探究成果をもとに総合型選抜試験に挑戦し、合格した。これは、まさに本校での探究学習が目指す、進路実現のモデルである。この結果を踏まえ、今年度は、9月に提言発表を行うことで、10月以降のコンテストやフェスに参加し、探究にブラッシュアップを重ね、深化させ、総合型選抜に向けた取組を強化させていく。

### 3 Adult (大人の参画)

#### <「むかわ学」に関係した地域人材の変化>

- むかわ学に関与した町民数、大人の関わりや変容のまとめ
- 学校関係者評価

⇒前期の活動で、むかわ学に関与した関係者が100名を超えた。これまでの3年間でむかわ学で関わった事業の大人が、生徒と協働して学校外の活動としてプロジェクトやイベントを実施。評価は、コンソーシアム役員会により、後期、学校関係者評価として行う予定。

### 4 Student (生徒の理解)

#### <「むかわ学」を終えた生徒・教職員の变化>

- 事後アンケート、教職員アンケートへの記載事項の分析
- 生徒による学校評価

⇒むかわ学の全体評価はまだ行っていないが、学校魅力化アンケートの生徒の意識調査では、自己肯定感が3年前と比べ50%以上向上したことが、間接ではあるが探究活動を行った成果であると考ええる。

### 5 System (体制の構築)

#### <地域及び地域外に対する高校魅力化の浸透>

- 地元中学生の本校進学率、地域みらい留学365生の希望人数
- 地域みらい留學生(道外募集)の受検人数
- むかわ学及び高校魅力化コーデイネーターの地域と学校の連携成果

⇒地域みらい留學生365の応募数が現在2名と定員す達している。町のバックアップ体制、コーデイネーターの活動やその取組に生徒が主体的に関わっている成果である。今後、3年留學生の募集に町の支援を受けながら全力をあげて進める。

#### 最後に

- 3年間の取組の中で、コーデイネーター(CN)の役割の大きさに気づくCN機能には、地域CN,探究CN,対流促進CN,学校魅力化CN,学習CN等、CNという名前がつく業務が様々で、全ての業務を追わなければならない現状がある。今後学校は、臨岐島前高校(CNスタッフが5名程度いる)のようにCNの業務・役割をしっかりと分類して、オーバーワークにならないよう町のCNとの分業を行うとともに、学校職員にもその業務を明確にして、CNに過度な依存など行わない体制を構築していくことが必要である。また、立場出勤時間が制限されている(本校は週30時間)中で、それ以上の勤務をしている実態がある。幸い、本校では、現在の阿部CNがむかわ町への深い思いから主体的に動いてくださること、町CNの重綱さんにもシェアできていることがプロジェクトが進んでいる要因である。しかし、持続可能な地域協働型学校体制の構築やそこで働く教員の働き方改革の観点では、地域協働の最も大事な職種は学校配置や適切な身分上の保障をすることが望まれる。
- 最後にこのプロジェクトのまとめにあたって、高校が今後地域協働を進めていくためには、学校職員として正式にコーデイネーターの人的配置を行うことを提案したい。

ご静聴ありがとうございました

資料 鷗 8

令和5年度 北海道CLASSプロジェクト実施成果報告書（3年次）

学校名	北海道鷗川高等学校
作成日	令和5年12月20日

1 今年度の検証について

①	検証の項目	Collaboration
	検証の方法	<p>&lt;高校と地域との協働&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デュアルシステムの受入事業者数、コンソーシアム委員数</li> <li>・プロジェクト数と地域人材の関与数等、連携の成果まとめ</li> <li>・高大地連携事業による大学生の参加数</li> </ul>
	検証結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携・協働する企業や関係者は毎年増えているが、コンソーシアム委員数を増やすことがその成果ではなく、途中から協働活動の目標を持続可能な取組とし、協働の母体となる本校のコンソーシアムが主体的に学校や地域の魅力化に関わろうとすることがその成果であることを目的にした。今後も、コンソーシアムの主体的な取組を推進していく。</li> <li>・デュアルシステムのむかわ町だけの受け入れにはその職種や受け入れ数に限界があり、この問題を解決すべく、その活動範囲を苫小牧まで拡げ、次年度から苫小牧市内の事業社もデュアルシステムに加入することが決定した。</li> <li>・高大地連携による「むかわ学」への大学生の授業参加が5月から始まり、前期で10名の参加。後期から10名の参加ができた。今後も大学生との連携を定期的で継続的・計画的に行う予定である。</li> </ul>

②	検証の項目	Literacy
	検証の方法	<p>&lt;「地域をキャンパスとした学び」による生徒の変化&gt;</p> <p>進路動向、プロジェクト数、学校評価等</p> <p>コンテスト、フェス応募数と賞の内容</p>
	検証結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、1名の生徒が、小樽商科大学に「むかわ学」での探究学習の探究成果をもとに総合型選抜試験に挑戦し、合格した。</li> <li>・今年度も高崎経済大の総合型選抜に、地域学をテーマとして受験し合格した。これは、本校での探究学習が目指す、進路実現のモデルケースである。</li> <li>・今年度は9月に提言発表をまとめの時期として早めることで、10月以降のコンテストやコンクール9つの団体に応募し、その探究がブラッシュアップ、深化され、生徒の進学後の課題解決能力向上の重要な課題として、就職試験や総合型選抜に向けた取組を強化させてきた。このことが、大学進学への総合型選抜や就職試験に活用でき、生徒の進路指導の強みになったことを踏まえ、今後、</li> </ul>

資料 鷗 8

	<p>地域課題解決型の探究活動を推進していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度のプロジェクト数は9。そのうち、町が実際に予算をつけて動いたものが1。地域と連携した開いたイベントが2であった。その中で生徒が主体的に地域へ出向き、自ら地域の方と交流し、イベント企画し実行した例も出てきたことから、地域をキャンパスとした学びの自走ができてきていると考える。</li> </ul>
--	--

③	検証の項目	Adult
	検証の方法	<p>&lt;「むかわ学」に関係した地域人材の変化&gt;</p> <p>「むかわ学」に関与した町民数、大人の関わりや変容のまとめ 学校関係者評価</p>
	検証結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期の活動で、「むかわ学」に関与した関係者が100名を超えた。これまでの3年間で「むかわ学」で生徒に関わった地域の大人や大学生、地域外の大人の数が増大し、生徒が単独で大人に働きかけ、協働して学校外のプロジェクトやイベントを実施した（コスプレ、お茶会など）。地域のコンソーシアム委員以外の企業や団体とのつながりも増え続けている。</li> <li>・地域住民も、高校生が主体的にむかわ町について考えている姿勢をみて、積極的に生徒のプロジェクトに関わるようになってきた。</li> <li>・この取組の評価は、学校評価として、教員、生徒、保護者、学校関係者にアンケートで行い、その評価結果はコンソーシアム役員会により、後期、学校関係者評価として第3者による学校評価をして検証し、次年度からの事業の改善につなげていく。</li> </ul>

④	検証の項目	Student
	検証の方法	<p>&lt;「むかわ学」・デュアルシステムを終えた生徒・教職員の変化&gt;</p> <p>事後アンケート、教職員アンケートへの記載事項の分析 生徒による学校評価</p>
	検証結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「むかわ学」の全体評価はまだ行っていないが、学校魅力化アンケートの生徒の意識調査では、自己肯定感が3年前と比べ50%以上増加したことが、地域課題解決型の探究活動やデュアルシステムによる長期間のインターシップを地域の支援で行った成果であると考えている。これは地域での生徒の受け入れ場所が広がり、学習の多くの時間を学校だけでなく、地域に出て過ごし、多くの大人が彼らと係わったことで、自分の居場所や話しを聞いてくれる大人の存在が多くなったという生徒のアンケート結果からうかがえる。</li> <li>・生徒自らが地域に出て、地域の高齢者との対話ができる場所を探しに出たケースもあり、地域が身近にあることやそれを受け入れる地域の温かさも、生徒が感じ取った結果の現れであると考えている。</li> </ul>

資料 鷓 8

⑤	検証の項目	System
	検証の方法	<p>&lt;地域及び地域外に対する高校魅力化の浸透&gt;</p> <p>地元中学生の本校進学率、地域みらい留学 365 生の希望人数</p> <p>地域みらい留学生（道外募集）の受検人数</p> <p>「むかわ学」及び高校魅力化コーディネーターの地域と学校の連携成果</p>
	検証結果	<p>・今年度も 1 次募集で地域みらい留学生 365 の応募が定員に達している。町のバックアップ体制、コーディネーターの活動やその取組に生徒が主体的に関わっている成果である。「チーム鷓川」として、全国の高校生や中学生にその魅力を発信し、その魅力の発信の方法も生徒が理解し、主体的に行っていること自体が本校の魅力として地域外にも伝わっている。今後、3 年留学生の募集に町の支援を受けながら、1 年留学の体制から 3 年留学全へシフトして、学校の魅力を本校生徒が理解し、それを外（特に中学生）に発信する力を高めていく。</p>

2 当事者の声について

生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生と協働した高校生では「将来地域住んで地域課題に関わりたい」との回答が 38.5%で、他の高校生と比べ割合が高い。</li> <li>・大学生では、「活動を通じて地域で働く姿を想像できたので、地方で働くことが選択肢の一つとなった」との声があった。</li> <li>・生徒から地域と積極的に関わり、もっと地域の住民と対話したいという申出から、コンソーシアム運営委員会において、その思いを発信した。</li> <li>・「地域で行っているイベントやボランティアの場があれば私たちを呼んでください」という生徒の思いに、コンソーシアム委員から、感動の言葉が聞かれた。</li> </ul>
教諭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンソーシアムの活用については、巡検での行政を介しての地域人材活用以外に、参加事業者から直接地域の情報を頂いたり、協力体制を共有できたりする絶好の機会ある。事業者同士のネットワークや枠組みを広げることで今以上に高校と地域の連携を強化し、「むかわ学」やデュアルシステムをはじめとした、体験的な地域での学びの根幹となるようにアプローチできれば良いと思う。</li> <li>・町民に「むかわ学」を周知する機会をもっと増やすとともに、高校生自体にも、町の活動を周知し、地元に対する貢献等の場面設定を斡旋していく。</li> <li>・生徒が主体的に探究について活動することを目標とするが、自主性という言葉を使って、生徒任せにすることはせず、教員もその様子を把握して主体的地域に関わり、主体的に学びの支援を行っていく体制を構築したい。</li> </ul>
地域の方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間支援組織の HIT の調査ではむかわ町の約 6 割の地域住民が探究型学習に関わりたいという意識をもっているため、地学協働は根付いている。</li> <li>・コンソーシアムを含めた地域との連携において配置されているコーディネーターの活用が重要だと思う。</li> </ul>

資料 鷗 8

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「デュアルシステム」や「むかわ学」等で地域の方々と関わる活動があるので、町民が高校生を見守り、応援してもらえるような高校になればいいと思う。</li> <li>・デュアルシステムシステムの定着、効果的な実践のため、受け入れ先企業に生徒の情報について事前の情報共有が必要だと思う。</li> <li>・地域みらい留学で全国各地から生徒を受け入れることより、地元高校生にとって多様な文化・考え方を持った生徒との学びあえる環境となることが、鷗川高校の魅力化につながるものと考えている。また、関係人口創出については、大人（行政側）の思惑が強い事項なので、まずは生徒ファーストで来てくれた生徒にとって貴重な時間になるよう、地域としても協力していきたいと考えている。</li> <li>・鷗川高校に入学するまではわからなかった地域協働活動もあり、中学生の保護者にも認知してもらえるように情報発信できれば良いと思う。</li> </ul>
--	--

3 今年度（令和5年度）の取組について

月	コンソーシアム会議・関係者打合せ等	主な学習活動
4	第1回コンソーシアム事務局会議 札幌大学スタッフ事務会議 地域みらい留学生関係者会議 公営塾スタッフ・教員会議 地高大連携に係る関係者打合せ	高校魅力化事業内容 （魅力化事業の学習内容） (1) 高校生対流促進事業（地域みらい留学365）での留学生2名の1年間の学びの確認。 (2) むかわ学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲによる地域を学びの場とした年間計画に基づく学習の実施 地域の方を講師として、年間35h以上の関わりと高校生との合同イベント等を実施。 (3) むかわ町の企業や公共施設におけるデュアルシステムを実施。事前見学2回、実践8回/1h1回、5ヶ月間のキャリア学習の実施 (4) 公営塾（夢叶輪公営塾）での放課後学習、公営塾スタッフによる進路支援開始（就職・進学支援） (5) 高大地連携による大学生と高校生と町民による連携事業 ※大学生と連携した学び（「むかわ学」での協働探究学習、海外留学生との授業交流、1年生による上級学校体験等）
5	第1回コンソーシアム役員会議兼 第1回学校運営協議会 札幌大学スタッフミーティング	
6	第1回コンソーシアム運営委員会 札幌大学学生との打合わせ	
7	第2回コンソーシアム事務局会議 札幌大学生・高校生の対面打ち合せ	
9	札幌大学スタッフ事務会議 地高大連携に係る関係者打ち合せ	
10	第3回コンソーシアム事務局会議 第2回コンソーシアム役員会議兼 第2回学校運営協議会	
11	第2回コンソーシアム運営委員会 札幌大学スタッフ事務会議	
2	第4回コンソーシアム事務局会議 第3回コンソーシアム役員会議 第3回学校運営協議会 第3回コンソーシアム運営委員会	

資料 鷓 8

4 自走可能な体制整備に向けた方策について

概ね「むかわ学」、「デュアルシステム」は自走しているが、さらにコンソーシアムと生徒が主体となった事業やイベントなどを増やし、高校生によるむかわ町の活性化を図り、高校魅力化コンソーシアム等の具体の成果を町に示し、その事業のブラッシュアップに向けた町の支援の方策を提示している。

具体的には、

- ①地域みらい留学生（道外）の募集に向けた町の支援は、教育委員会に働きかけながら、居住地の確保を進めている。
- ②高校生と中学生が交流できる合同研修会（ワークショップ等）の企画や中高合同ボランティア活動の複数学年での実施。
- ③むかわ学はコーディネーターをつなぎ役となり、教員を介さずとも生徒の探究的な活動を地域の方と共に実践できている。（コーディネーターが機能している）
- ④公営塾の役割が学習面だけでなく、探究学習も拡げていき、放課後の探究活動の基点となって活用することが自走につながると考える。町教育委員会とともに、その活動拠点となりえるよう、スタッフ確保を現在進めている。
- ⑤デュアルシステムの受け入れ企業がむかわ町だけでは、生徒のニーズに応えきれない現状から、今後はさらのその範囲を苫小牧市に拡大する。
- ⑥次年度は、札幌大学生をファシリテーターとした「むかわ学」合同探究ゼミの実施 等を町や大学と連携して進めている。

5 圏域の研究指定校等、他校との連携・交流について

プロジェクトの最終年度にあたり、高大地連携が2年目となり、札幌大学生との持続的な連携体制構築の基礎ができた。

具体的には

- ①5月から大学生が「むかわ学Ⅲ」（3年生）の授業に参加し、7月、8月、9月までを3年生のファシリテーターを担当し、町長への成果発表と施策への提言を行い、その結果、町も提言内容を1部施策化させ予算をつけ実施できた。
  - ②後期10月から12月までの各月で2年生と対面でのゼミ単位の交流を行い来年9月の提言発表会まで継続的に支援をする。
  - ③1年生は札幌大学へ体験授業と施設見学に行き、大学生生活の具体的なイメージを構築することができた。
  - ④札幌大学に留学している海外の学生10名と2・3年生が文化交流をおこなう授業を展開し、多様な文化の共有をおこなった。
  - ⑤町が大学生をインター生として受け入れ、町の施策活動に参加させ大学生の獲得を狙うなど、高校、大学、地域の3者連携が構築されていた。
- 以上、町の支援をうけて大学との連携、相互交流の場をもつことができた。

## 資料 鷓 8

## 6 学校独自の取組・工夫

- ・コンソーシアム運営委員会において、生徒からコンソーシアム委員への問いかけを行うなど、教員やコーディネーター主体の運営から生徒とコンソーシアム委員の直接的な関わりをもつ場を設定し、地域と生徒の直接的な交流を進めることで持続可能な地域協働学習の自走体制の構築を図っている。
- ・札幌大学スタッフと本校教員との独自の打ち合せツールを有し、通年で継続的、日常的交流ができる体制になっている。

## 7 その他特記すべき事項

- ・地域協働ではコーディネーターの役割が最も重要で、持続可能にするためには、コーディネーター配置が持続可能でなければならない。現時点で、本校では高校のコーディネーター1名（内閣府による対流促進事業採用R6まで）、町のコーディネーターが1名の体制で行っているところを、次年度から本校採用のコーディネーターも町の職員として持続可能な配置にすることを進めている。

## &lt; 3年間のまとめとして &gt;

## 8 3年間の成果

## 【主な取組と成果】

地域を学びの場とした教育課程の定着（3年次）

- ① 町と連動した地域みらい留学生の獲得（定員2名）
  - ・町と連携した道外生徒受け入れ体制の環境整備（ハード面の財政的支援）が定着した。
  - ・寮、町親、受入後の生活環境、生徒の緊急時の体制整備等の整備ができた
- ② 地域人材や資源を活用したむかわ学による探究学習サイクルの定着
  - ・地域人材と大学生と協働したむかわ学プロジェクトの拡大ができた（コスプレ、グルメフェスタの企画）
  - ・探究成果の町長、議長、関係者への発信・提案を9月にすることで、発表の成果を施策に反映させる日程の改善ができた。
- ③ 地域企業、官公庁、教育機関を活用したデュアルシステムの定着
  - ・個別の進路に合わせたより実質的な就業形態に近い長期インターンシップの実現ができた。
  - ・次年度は苫小牧への拡大を予定し、個別の進路に応じた受け入れ先の拡大が期待できる（苫小牧市中小企業同友会と連携）
- ④ 公営塾を活用した難関大学への進路実現
  - ・公営塾スタッフの授業への日常的支援体制の構築ができた。（チャレンジスタディへの授業支援）
  - ・公営塾の場での放課後の進路支援体制の継続的活用（公営塾での面接練習等）ができた。
  - ・一方、放課後学習の場（探究も含め）としての公営塾機能の活用が不十分だったので、次年度は探究も含め学習の場として生徒へ働きかけをしていく。

## 資料 鷗 8

## ⑤ 高大地連携体制の構築

- ・ 前期 5 月からの大学生の継続的な「むかわ学Ⅲ」へのゼミ活動への参加体制、協働活用ができた。
- ・ 札大留学生と各国の歴史教育の差異について討論する合同授業や各国の文化交流を行うことができた。
- ・ 札幌大学生とオンラインによる情報リテラシーについて討論し、合同で穂別診療所の中塚医師（香山リカさん）の講義を受けた。

## 【後期の札幌大学との連携事業】

- ・ 「むかわ学Ⅱ」もテーマ設定の場面から大学生が入る予定。
- ・ 上級学校見学で大学の授業参加と校舎見学予定
- ・ 各国留学生による、国際交流授業を実施予定

## 9 3年間の課題

地域・学校協働の拠点として本学が多くの、幅広い層の地域住民、団体等を教育に参画させ、この3年間、コンソーシアムという形態の基点作りを緩やかなネットワークを形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制として定着を図ってきた。以前は既存の中高一貫教育委や学校評議委員会など、連携の体制は様々な形態があったが、この4年、本格的にコンソーシアムを導入し、地域学校協働の基点整備のため、様々な地域協働の新規事業を興し、その核として取り組んできた。コンソーシアムの整備にあたっては、地域と学校のパートナーシップに基づく双方向の「連携・協働」を推進し、「総合化・ネットワーク化」へと発展させていくことを前提とした上で、コーディネート機能、多様な活動（より多くの地域住民等の参画による多様な地域学校協働活動の実施）の推進、継続的な活動（地域学校協働活動の継続的・安定的実施）のできる体制の構築に重点を置き運営してきた。今年度の成果は前述したが、この取組が評価されるためには、持続可能な学校運営が保障されてはじめてその取組が認められる。そのために、地学協働が、地域の保護者や小学生、中学生に評価され、生徒が「行きたい学校」、地域から「活かしたい学校」、保護者が「行かせたい」学校になる必要がある。今後も、持続的に2間口が維持できる体制を模索し、取組の深化と、内容の進化を続けることが今後の課題となる。